

### 【概要】

1月25日（木）

- ・ 午後7時6分 パトロール中の当社社員が、建屋内RO循環設備B系からRO膜などの目詰まりを抑制するために使用する薬剤（次亜塩素酸ソーダ）と思われる液体が漏えいしていることを発見。漏えいした水は堰内に留まっており、環境への影響はない。
- ・ 午後7時50分 次亜塩素酸ポンプ（B）出口配管接続部を増し締めし、滴下停止を確認。
- ・ 午後8時35分 漏えいした水のpHを確認したところ、中性（pH6～7）を示したため、その後、核種分析をした結果、セシウム134およびセシウム137が検出された。

漏えいした水が薬剤の液体であれば、強アルカリ性を示す。

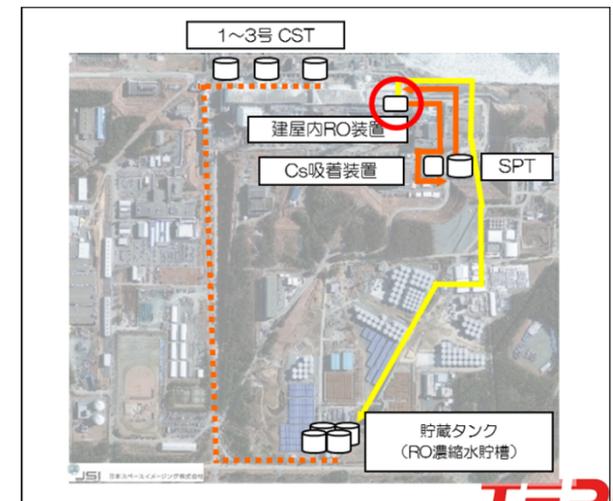
- ・ 漏えいした水はRO処理前の水が次亜塩素酸注入ラインへ逆流して、次亜塩素酸注入ポンプ（B）出口配管接続部から漏えいしたものと推定。準備が整い次第、漏えいした水の処理を行う。

### 【現場状況】

- 漏えい範囲：約1.0m×1.1m×深さ1cm
- 漏えいした水の放射能分析結果は以下のとおり。

- ・ セシウム134： $4.8 \times 10^2$  Bq/L
- ・ セシウム137： $4.2 \times 10^3$  Bq/L
- ・ 全ベータ： $1.9 \times 10^4$  Bq/L

放射能濃度は、過去のRO処理前の水と同等であると確認。



敷地平面図

# 現場写真



撮影日：2018年1月25日

撮影者：東京電力ホールディングス株式会社